

# NAREC

newsletter

No.80

2023 Summer

2022年度  
年次報告書



キツネノカミソリ (東京都練馬区)  
Photographed by Fukashi Oguchi

# Our Vision 多様な生き物と共に暮らす社会を目指して

～実現したい社会像～

# Our Missions

～私たちの使命～

身近な自然環境を復元すること。  
自然体験を通じた豊かな感性と人間力溢れるヒトが育つ場を提供すること。

## 理事長あいさつ

認定NPO法人自然環境復元協会 理事長 島村 雅英



この春はコロナ禍も明け日常に戻りつつありますが、3年間のCOVID-19の対策を行いながらの活動の継続は、自然の保全再生やふれあいの重要性を再認識する重要な機会となったとも考えております。活動を支えて頂きました皆様に感謝いたします。

さて、昨年12月にモントリオールで開催された生物多様性条約第15回締約国会議において「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、22のターゲットと8の数値目標が設置されました。このうちターゲット3の30by30目標（生物多様性の損失を止め、人と自然との結びつきを取り戻すため、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する）に注目しています。従来の生物多様性保全では絶滅危惧種など貴重種などが注目されがちでしたが、30by30では、企業の屋上ビオトープや企業緑地、学校ビオトープ、都市緑地なども対象としたOECM（保護地域以外で生物多様性保全に資する地域）が設定されました。当会が取り組んできた都市の中の身近な自然環境の復元やその取り組みが明確に位置付けられたことを意味します。SDGsは自然環境の保全再生・復元と他の社会課題を関連づけるためのしくみとして当会でも取り組んでいます。個人で行動に移すことが難しいという課題もあります。このため30by30をSDGs実現のための実践として捉え、両輪で取り組むことによってミッションである「身近な自然環境を復元すること」「自然体験を通じた豊かな感性と人間力溢れるヒトが育つ場を提供すること」の達成に近づくことができると考えております。

これらも活動が持続・発展できますよう、皆様のご理解とご支援を賜りますよう引き続きよろしくお願い申し上げます。

2023年6月

### 30by30 OECMの詳細はこちら

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/flyer30by30.pdf>  
(出展元:生物多様性のための30by30アライアンス事務局環境省自然環境局自然環境計画課)

### 環境再生医制度

環境再生医は、当協会が制定した資格認定制度です。さまざまな分野で持続可能社会をつくる環境人材を、育成・支援することを目的としています。自然環境の再生のみではなく、「自然とヒトの関わりの再生」に力を入れていることが特徴です。環境省の「人材認定等事業」に登録されています。

### ふるさと未来創造プロジェクト

2008年より都市と農村の交流による地域活性化（農山漁村の活性化）の支援活動を行ってきました。地方の豊かな自然環境を守るため、全国の環境再生医等と共に今の時代に即した新しい地域運営の仕組み（新しい「結」の形）をつくります。

### レンジャーズプロジェクト

一步を踏み出したい環境ボランティア希望者と、人手を必要とする環境保全団体を繋ぎ、より多くの自然を未来につないでいくプロジェクトです。活動は休日の半日で、初心者でも気軽に参加できる環境保全ボランティアとして、若い世代を中心に参加いただいています。

## 役員一覧

### 理事

島村 雅英（理事長）  
横浜エコアップ研究所 代表  
河野 均（副理事長）

玉川大学 名誉教授  
石川 晶生（会長）  
玉川大学 名誉教授  
岩崎 哲也

兵庫県立大学大学院  
緑環境景観マネジメント研究科准教授  
小口 深志  
前田建設工業株式会社  
小堀 悠  
特定非営利活動法人NPOサポートセンター 事務局長  
堺 かなえ

NPO法人全国水環境交流会 事務局長  
高畑 正  
農都共生ネットこうべ 代表、よこお自然塾 塾長  
環境省環境カウンセラー  
谷本 亮  
前玉川大学リベラルアーツ学部教授  
水野 宗衛  
玉川大学農学部生産農学科 特別研究員

### 監事

岩坪 友義  
静岡牧之原インダストリアルエンジニアリング協会  
小林 徹  
認定NPO法人 経営支援NPOクラブ

# 環境再生医プロジェクト

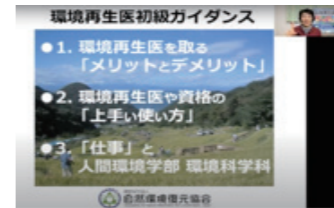
環境教育・環境人材の育成



環境再生医事業では、気候危機そしてSDGs時代での役割と在り方を常に検証し、事業ビジョン「環境再生医が、自然環境をはじめとする多様な分野に拡がり、自然も人も豊かな社会・地球に」を実現すべく、ステークホルダー（資格取得者、認定校、企業や団体等）の皆様と協働しながら、さらに事業を進めてまいります。

## 認定校制度

2022年度は37大学・40学部との提携を継続し、298名の初級取得者を輩出しました。また一昨年度より導入しているオンライン資格ガイダンスに加え、認定推薦申請のオンライン化を拡大し、認定校の手続き効率化をさらに進めました。



▲オンラインでの資格ガイダンス



▲認定校専用初級申請オンラインフォーム

### <認定校一覧（五十音順）>

岩手大学、岩手県立大学、江戸川大学、大阪産業大学、金沢大学、岐阜女子大学、岐阜大学、九州産業大学、京都先端科学大学、甲南大学、神戸女学院大学、神戸大学、実践女子大学、芝浦工業大学、尚絨学院大学、信州大学、東京テクニカルカレッジ、第一工科大学、拓殖大学、拓殖大学北海道短期大学、玉川大学、都留文科大学、東海工業専門学校金山校、東海大学、東京農業大学、東京農工大学、常葉大学、長崎大学、西日本短期大学、日本工科大学校、日本大学、人間環境大学、兵庫県立大学大学院、福島大学、北海道科学大学、宮崎大学、龍谷大学

## 勉強会

環境再生医の資格とテキストの理解促進を目的に、テキストを題材とした勉強会「環境プチ勉強会」をオンラインにて3回開催し、参加者の約8割の方より好評をいただきました。

### ●開催期日

- ・第1回 6月9日(木) 「なぜ思想や法律を学ぶのか?」参加者 約100名
- ・第2回 8月10日(水) 「なぜ不自然な自然を学ぶのか?」参加者 約100名
- ・第3回 10月13日(木) 「なぜ地域コミュニティを学ぶのか?」参加者 約80名

### ●参加者の感想

- ・『そもそも（環境とは、身近な自然とは、コミュニティとは）』を改めて考えるきっかけになった。
- ・環境と対する際には、多角的な視点と自分なりの「基準」を持つことが重要とわかった。
- ・教科書的なことではなく、Q&Aなどを通して「本音」が聞けて興味深かった。ぜひいろんな分野の学生にも聞いてほしい。



▲勉強会「環境プチ勉強会」



▲第2回勉強会「なぜ不自然な自然を学ぶのか?」

## 資格認定講習

2023年1月7日(土)～31日(火)において、2022年度の一般向け環境再生医資格認定講習をオンライン開催し、116人の方々に受講いただきました。特に今回は、若手環境人材からの受講促進を目的に、初級受講条件を18歳以上(学生含む)と改訂して実施した結果、高校生を含む13人の現役学生に受講いただきました(内訳等以下)。

また、多様な分野からの受講を促進するための制度改定2年目となり、参加者の分野は約20分野（非環境分野含む）、地域は北海道から沖縄まで 31都道府県の方々にご参加いただきました。今後も多様な分野の方々に環境再生医として活躍いただけるよう、さらに改善を続けてまいります。



▲基礎講習「環境再生医ガイダンス」



▲実践講習「ローカルSDGs（地域循環共生圏）」



▲受講者「ワークショップ」

### ●受講者概要

- ◎人数  
計116名・(受講級)初級69名 中級42名 上級5名
- ◎分野  
約20分野(サービス業/非環境系、市民団体、学生、農林漁業、公務員、造園業、製造業/工業系、運輸業、主婦/主夫、情報通信業、教育機関、環境教育施設、サービス業/環境系、建設コンサルタント、エネルギー業、不動産業、福祉団体、経営コンサルタント、商社、マスメディア、金融業、環境調査/分析 など)
- ◎地域  
計31都道府県  
北海道、青森県、岩手県、福島県、山形県、宮城県、新潟県、群馬県、茨城県、埼玉県、東京都、千葉県、山梨県、長野県、富山県、神奈川県、静岡県、岐阜県、愛知県、三重県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、香川県、福岡県、熊本県、鹿児島県、沖縄県

### ●受講者の感想

- ・ワークショップで分野、地域、年齢、経験も違う方々と話すことにより、かなり視野が広がった。
- ・同じ講習試験を受けている者同士だからできるディスカッションとなり、一人ではできない気付きがたくさんあった。
- ・講義が何度でも視聴可能のため、より深く内容を理解することが出来た。

## 資格の更新

取得後の活動促進のため、中級・上級を所有されている方には5年ごとの資格更新をお願いしております。2021年度は61%の方に更新いただきました。



▲資格更新手続き「自己紹介書」

# ふるさと未来創造プロジェクト

## 農山漁村の活性化 及び 関係人口の創出

主に農山漁村の自然環境を保全するために、グリーンツーリズムやエコツーリズムの事業化の伴走支援を行っています。

また、内閣府【令和4年度関係人口創出・拡大のための対流促進事業（中間支援組織の提案型モデル事業）】に採択され、大学生と地域を結ぶ「環境系学生未来塾」のモデル化・2地域（大分県中津市耶馬溪町、長野県伊那郡泰阜村）での展開をしました。



▲環境系学生未来塾 in 耶馬溪 での里山整備

### 木繋プロジェクト（鹿児島県屋久島町）

“命を繋ぐ森林のしごと”をテーマに、小学生、大学生、社会人を対象としたモニターツアーを計4回実施し、ツアーの造成・ブラッシュアップを行いました。NARECはモニターツアーの構築にあたっての安全管理や環境教育的視点での助言及び自立自走化に向けた組織作りの支援を行いました。



▲モニターツアーでの木のおもちゃ体験

### 市原みつばち牧場農泊推進協議会（千葉県市原市）

協議会では、養蜂をキーワードに里山体験プログラムの作成・モニターツアーの実施をしました。NARECでは以下の4つの業務を受託し、支援しました。

- ①協議会の環境に合わせた安全管理及び案内における手順などの自然案内技術導入支援  
協議会内で体験事業を進めていくにあたって、魅力あるコンテンツの作成・実施をしている人材育成をしました。
- ②データ収集分析、ブランディング検証・改善業務  
農泊・観光・自然体験等に関わる社会ニーズや傾向について情報を収集し、当協議会の今後の方向性について、助言・分析を行いました。
- ③経営戦略・マーケティング戦略の構築に関わる支援  
協議会のターゲットや地域資源を改めて整理し、他地域・他団体との違いや特徴の比較をしたうえで、戦略について提案・助言を行いました。
- ④新規プログラムの開発にあたっての助言指導  
①で育成した人材が、企画の実施・コーディネートを行えるように必要事項の共有やノウハウの指導を実施しました。



▲みつばち牧場敷地内の里山での竹工作体験

### 令和4年度 関係人口創出・拡大のための対流促進事業（中間支援組織の提案型モデル事業）

令和4年度関係人口創出・拡大のための対流促進事業（中間支援組織の提案型モデル事業）の採択を受け、以下の活動を実施しました。

#### 1. 環境系学生未来塾のモデル化

- ・未来塾の過去参加者や関係者にアンケート調査やヒアリング調査を行い、参加者・関係者・地域への効果を可視化。
- ・広報活動や地域協力者への説明のため、未来塾のエッセンスや参加者の声などをまとめた広報冊子を作製。

#### 2. 長野県伊那郡泰阜村・大分県中津市耶馬溪町での試行

- ・2022年9月に「環境系学生未来塾 in 泰阜村」（4日間）、2023年2月に「環境系学生未来塾 in 耶馬溪」（4日間）を開催。
- ・泰阜村では「NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター」、耶馬溪では「株式会社森と人と」に地域受け入れ団体として、共催していただきました。

過去参加者へのアンケート調査の結果「終了後開催地域に帰ってきたことがある」と答えた参加者が64%となりました。そのうちの80%以上が2回以上帰ってきていると回答しており、関係人口創出に大きく貢献していることが判明しました。

参加学生からは、「自分の根本と向き合ったいこうと思った」「地に足のついた暮らしの重要性を感じた」という声があり、地域で暮らす大人

### Green School Yakushima（鹿児島県屋久島町）

昨年度に引き続き、環境教育プログラム開発の一環として、島外の小中学生や教育関係者を招き地域の一次産業従事者にインタビューを行うモニターツアーを実施しました。NARECでは以下の2つの業務を受託し、支援しました。

- ①協議会が対象として狙っている大学生に向けてのアンケート作成、実施、分析を行いました。
- ②本協議会の活動への地域関係者からの理解や協力者の拡大を狙い、地域住民を巻き込んだ学習会、ワークショップの企画にあたっての助言・協力を行いました。



▲さば節工場の見学ツアー

の在り方に影響を受けている印象を感じました。協力していただいた地域住民からは、「20代前後の若者の感覚に触れられる機会が少ないので、貴重な機会だった」「参加する学生が真剣な目線でわたしの人生のはなしを聴いてくれて、自己肯定感が上がった」という声があり、参加者だけでなく地域にも効果があることがわかりました。

#### \*環境系学生未来塾とは

自然環境や地域活性、第一次産業など幅広く環境系の分野に少しでも興味のある大学生に向けた、これからの人生をデザインするワークショップ型合宿イベント。

2018年より鹿児島県屋久島町で実施されており、以下の3つのコンテンツを軸に実施しています。

- ①実施地域で、自然・文化を体験する時間
- ②実施地域で、環境問題や地域課題解決を目指し働いている大人の仕事観、人生観を学ぶ時間
- ③参加した学生が、生き方や関心のある社会課題とのかかわり方について対話を通して模索する時間



▲環境系学生未来塾 in 耶馬溪 集合写真

# レンジャーズプロジェクト

## 身近な自然環境の保全・復元・維持管理

都市の身近な自然を守るボランティア活動です。

地域の保全活動団体とボランティア希望者をつなぎ、人手不足や担い手不足等の課題解決に取り組んでいます。



▶鎌倉中央公園での田の草取り

### 環境保全活動の実施

2022年度の環境保全活動（以下、ミッション）は、計43回実施しました。参加者数は423名で、登録者数は2023年3月時点で4,733名でした（企業・認定校のレンジャーズは除く）。

5月～7月の期間で、ボランティアの受け入れ先となる実施フィールドを一般公募し、新規に2箇所採択しました。

神奈川県横浜市内でのミッションでは、NPO法人よこはま里山研究所（以下NORA）と協働で実施しました。さらにNORAが横浜市より受託した事業「森づくりボランティア体験会」の一部業務を受託し、協働で4回実施しました。

この他、11～12月に、18歳以上の学生を対象とした全3回のプログラムも開催しました。

#### 実施フィールド一覧



#### トーキョーレンジャーズ

荒川砂村、宇津貫緑地、柏の宮公園、サンシティの森、目黒川遊歩道、黎明橋公園（★）



#### 埼玉レンジャーズ

飯盛川、太田ヶ谷の森、河原町原っぱ



#### ヨコハマレンジャーズ

恩田の谷戸、川井緑地、桜ヶ丘緑地、瀬上市民の森、新治の谷戸田、元町公園プール、谷矢部池公園、森づくりボランティア体験会（横浜市内4か所）/たちばなふれあいの森（★）、夢見ヶ崎動物公園



#### かまくらレンジャーズ

鎌倉中央公園



#### おおさかレンジャーズ

芥川緑地、大阪城公園、穂谷の里山

以上26フィールド（★は新規）



▲黎明橋公園にて天然芝生の刈り取り・雑草抜き



▲大阪城公園にて「ひこぼえ」の剪定

### 新規リーダーの登用・育成

ホームページや外部サイトへの掲載を行い、有償のリーダーを募集しました。リーダーは、フィールド活動当日に現場へ行き、参加者と現地団体の橋渡し役などのファシリテーションを担います。

近年、当プロジェクトではリーダーの人員不足が続いていましたが、今回の募集により、新規に5名登用することになりました。今後、研修会等も行い、リーダーのスキルアップも目指していく予定です。

### 米国One Tree Plantedとの協働プログラム

米国NGOのOne Tree Plantedと協働で、10月に埼玉県川口市と沖縄県糸満市にて計2回、プログラムを開催しました。

川口市では、荒川下流の河川敷「河原町原っぱ」にて、環境保全活動を行いました。在来種や希少種を守るため、外来種など脅威となる植物の除去を行いました。（協力：かわぐちっ子荒川クラブ）

糸満市では、キンドリル株式会社の沖縄支社の皆様と「海のふるさと公園」に植樹を行いました。（協力：NPO法人 ハマスキー）



▲コセンダングサの抜き取り（川口市）



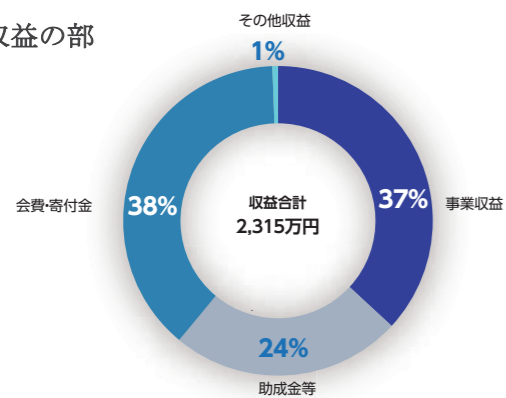
▲参加者と現地団体の皆さんとの集合写真（川口市）

# 会計報告

## I. 経常収益

1.事業収益	8,538,000
2.助成金等	5,589,845
3.会費・寄付金	8,890,929
4.その他収益	134,919
合計	23,153,693

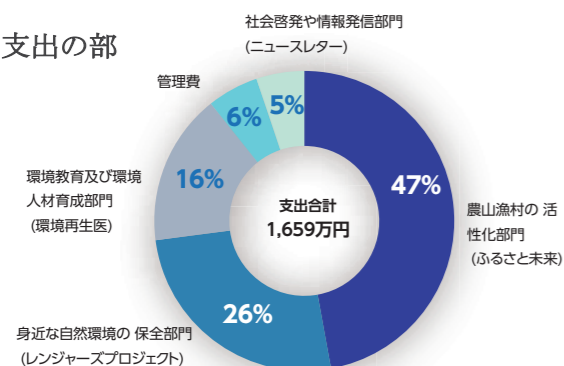
## 収益の部



## II. 経常費用

1.農山漁村の活性化部門	7,822,849
2.身近な自然環境の保全部門	4,282,419
3.環境教育及び環境人材育成部門	2,713,878
4.管理費	919,533
5.社会啓発や情報発信部門	857,751
合計	16,596,430

## 支出の部



## 書籍の紹介

NARECからの推薦書籍です。気になった書籍はぜひ手にとり読んでみてください。



三番瀬・四季の野鳥たち

田久保 晴孝 著  
(風濤社、2001)



蜂からみた花の世界  
四季の蜜源植物と  
ミツバチからの贈り物

佐々木 正己 著  
(海游社、2010)



森と日本人の1500年

田中 淳夫 著  
(平凡社、2014)



チェリー・イングラム  
日本の桜を救ったイギリス人

阿部 菜穂子 著  
(岩波書店、2016)

# 理事会・総会のご報告

## 令和5年度第1回理事会

2023年5月31日(水) 16:00~18:15、オンライン会議にて2023年度第1回理事会を開催しました。(理事出席9名、監事・顧問出席1名)

### ●審議事項

- 第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告
- 第2号議案 令和5年度事業計画及び予算

## 令和5年度第24回定期総会

2023年6月18日(日) 14:35~15:50、オンライン会議にて定期総会を開催しました。(正会員出席オンライン14名、委任状・議決権行使書29名)

### ●審議事項

- 第1号議案 令和4年度事業報告
- 第2号議案 令和4年度決算報告

### ●報告事項

- (1) 令和5年度事業計画
- (2) 令和5年度活動予算

以上、理事会及び総会において、すべての審議事項が承認されました。

## 事業

## レポート

# 環境系学生未来塾

## 2023年度の開催について

昨年度、関係人口モデル事業としてモデル化した環境系学生未来塾を2023年2年度は計5地域、6回開催予定です。環境問題、環境保全、地域創生、食と農、環境教育等に関心のある大学生のみなさん、セカンドキャリアを模索中の社会人の皆様のご参加をお待ちしております。詳細情報・応募方法はHPにて更新していきます。

### 2023年夏期

8月28日~9月1日 鹿児島県屋久島町

NPO法人HUB&LABO Yakushimaとの共催。世界自然遺産屋久島で自然と共生する多様な生き方を探求します。

9月3日~6日 長野県泰阜村

NPO法人グリーンウッド自然体験教育センターとの共催。農山村留学の受け入れ、キャンプを通じた子供の教育を積極的に行っている現場

に訪れ、自然と教育の在り方を探求します。

9月8日~12日 北海道羅臼町知床

今年度が初開催となる知床。同じ世界自然遺産でも、屋久島とはまったく違う文化や暮らしを目の当たりにし、自然とのかかわり方を探求しましょう。

### 2024年春期

2月27日~3月1日 山梨県清里村

3月6日~10日 鹿児島県屋久島町

3月13日~17日 大分県中津市耶馬溪

(ふるさと未来担当 石黒)



▲2022年夏 環境系学生未来塾 in 泰阜村

## 活動レポート 香港団体との交流

### サンシティの森にてMake A Difference Instituteの受け入れを行いました

2023年3月12日(日)に香港の「Make A Difference Institute (MAD)」の皆さまを受け入れました。MADは香港に拠点を置くNPO団体です。社会的課題の解決をテーマにしており、街づくりプロジェクトとして参加者と共にアジアの都市へ行き、ソーシャルイノベーションを学んでいるそうです。

当協会が刊行した『写真で見る 自然環境再生』の中国語翻訳を読み、今回ご連絡をいただきました。特に「環境再生医・レンジャーズプロジェクト」について関心があり、サンシティの森については何年経っても住民たちが参加していることに感心したそうです。以上の経緯からレンジャーズプロジェクトを受け入れてくださっている「サンシティの森」での開催が決定し、当日を迎えました。

MADの今回のテーマは「人と環境の関係」でした。香港でも問題になっている【都市部と農村部の対立・都市の開発・想像力の不足】を意識し、見学をされていました。日本にも香港と同じ、都市化された東京に「自然環境の保全をしている里山があること、地域創生のプロジェクトを行っている場所があること」に興味を持ったようです。香港で課題となっている、都心部の街づくりや地方創生のプロジェクト、持続可能な地域社会への実行についても考えるヒントにしたいと、様々な場所を撮影し、質疑応答の場でも様々な質問を投げかけてくださいました。

今回の交流は、訪問団体、現地団体ともに、それぞれ新たな発見や勉強があったのではないかと思います。私自身もサンシティの森のように、そこに住む人たちが自主的に環境を保全していこうと積極的に活動を行っていることについて、とても素晴らしいことと感じていました。しかしそれは海外の方々も同じで、世界各地で都市開発と自然環境の保全が問題になっていることを目の当たりにしました。

当日参加されていたMADの方々には18歳~35歳。次世代の人たちへ身近な環境を保全する活動に参加する機会を作ることがレンジャーズプロジェクトの目的ですが、まさに海外の方へもこのことを考えるきっかけを作ることができたのではないのでしょうか。

(事務局 萩原)



▲集合写真



▲サンシティの森でのしいたけ栽培の見学



▲「サンシティのご神木」スタジイの見学



▲NARECスタッフによる、サンシティの森の概要説明

## ベーシックガバナンスに認証されました

日本非営利組織評価センター（JCNE）が運営する制度で、非営利組織の組織運営について、法令・定款に基づいた基本的なガバナンスが適切に行われているかどうかを評価するものです。当協会は全ての基準を満たしていることを評価され、ベーシックガバナンスに認証されました。

## 30by30アライアンスに登録しました

30by30（サーティ・バイ・サーティ）とは、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる（ネイチャーポジティブ）というゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する、という目標のことで、

当協会も30by30の達成を目指し、参加団体として登録しました。

## 寄付の税制優遇措置について

認定NPO 法人である当協会へのご寄付は、税制優遇措置の対象となり、確定申告の際に、税金の優遇措置が受けられます\*。

\*各自治体によって若干異なります。詳しくは国税庁HP、お住いの都道府県の税事務所にお問い合わせください。

\*寄付の税制優遇をご希望の方は領収書が必要となります。「領収書送付先ご住所」を当協会事務局までお知らせください。



## ご支援のお願い

当協会の活動は会員の皆様や取り組みにご賛同くださった寄付者の皆様によって支えられています。いただいたご寄付は全国的に担い手不足となっている環境人材を応援し、都市部、農山漁村部の自然を未来に残します。



### ご寄付について

以下口座やゆうちょ銀行、クレジットカードで受け付けています。

三菱UFJ銀行 神田支店

普通 5567029

口座名義

特定非営利活動法人

自然環境復元協会

▶ [https://bit.ly/narec\\_donate](https://bit.ly/narec_donate)



### YAHOO! JAPAN ネット募金

Tポイント（期間限定ポイントも可）を使った寄付が可能です。

※詳細については下記ホームページをご覧ください。



▶ [https://bit.ly/narec\\_yahoo01](https://bit.ly/narec_yahoo01)

### お宝エイド®

家にある不要なものを送ることでNARECの活動を応援できます！ 着払いで配送可能。無料で、気軽に、簡単に始められます。

※詳細や領収書については下記ホームページをご覧ください。



▶ [https://bit.ly/narec\\_buppin](https://bit.ly/narec_buppin)

[表紙]キツネノカミソリ (*Lycoris sanguinea*)：ヒガンバナ科の多年草で、春一番に林床で細葉を広げて養分を球根に蓄え、葉を落として休眠した後、お盆頃に花を咲かせます。手入れが行き届いた明るい樹林でしか育たないので、撮影した東京都では絶滅危惧ⅠA類に指定されています。名前の由来は、花が狐火のように葉がカミソリのようなだから、と言われています。